

事業報告

2026年 3月期

【基本方針】

当社は「北欧時間が流れる森と湖での体験を通じて、こころの豊かさの本質を提供する」を 企業ミッションとして、埼玉県飯能市に所在する宮沢湖においてムーミンの物語の世界観を追体験できる「ムーミンバレーパーク」(MVP)を運営しております。当社は、来園されるゲストの皆様、株主の皆様、協賛企業、地元自治体・企業やお取引先企業をはじめとするあらゆるステークホルダーの皆様からの信頼と共感をもとに、企業価値を高めてまいります。

【経営環境と事業取組】

当事業年度における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が見られる一方で、物価上昇の継続やエネルギー・原材料価格の不安定の中、個人消費には引き続き選別的な傾向が見られました。また、少子高齢化を背景とする労働力不足や人件費上昇への対応は、サービス業全般に共通する重要な経営課題となっております。

その一方で、訪日外客数は高水準で推移しており、観光・レジャー市場は引き続き拡大基調にあります。国においても、地方誘客の促進、観光と交通・まちづくりの連携強化、観光DXや観光人材確保の推進が掲げられており、地域と一体となった観光振興の重要性は一段と高まっております。

このような環境のもと、当社は、ムーミンの物語・世界を体感できる唯一無二の価値を磨き上げるとともに、来園動機の継続的な創出と収益基盤の強化に取り組んでまいりました。

春季においては、3月に「スプリングフェスティバル2025」を開催。2,000本のルピナスが咲き、春らしい装飾やフオスポットなどが登場しました。4月には恒例イベントとなった「ムーミンバレーパーク アンプレラスカイ」を開催するとともに、累計来場者数500万人突破を見据えたカウントダウンキャンペーンを実施し、新規顧客及び休眠顧客の来園促進に努めました。さらに、ゴールデンウィーク期間中には湖上の花火と、ファミリー層向けワークショップを拡充することで、来園者の満足度向上及び滞在時間の延長を図りました。

夏季においては、酷暑対策の一環として「エンマの劇場」への大型日よけテントの設置等の猛暑対策を実施するとともに、湖上に「湖上のテラス」を新設し湖上のプールとして水遊びエリアを拡大いたしました。また、戦略的な価格施策として「こども応援キャンペーン」を前年に引き続き実施した結果、夏休み期間中のファミリー層を中心に来園者に大変ご好評をいただき、物販及び飲食における二次消費の増加にも寄与いたしました。

「ムーミン谷で水あそび2025」や「ムーミンの日スペシャルウィーク2025」のイベントで来園者を楽しませていました。

秋季においては、「ムーミン谷の収穫祭(ハーベスト)」を開催いたしました。テーマは『ムーミンパパの思い出』で、キャラクターにちなんだ展示や、りんごをイメージしたデコレーション、秋の花や果実を使ったフオスポットが展開されました。期間中の土日祝には、「湖上火火大会～秋2025」も実施され、秋の夜景とあわせて楽しめる構成でした。

冬季においては、「開業以来はじめてのクリスマスイベント」を開催し、本年度より新たにスノーマシンを導入することで、ムーミン物語の幻想的な雪景色の世界観をより高い水準で表現いたしました。

「ムーミン谷のクリスマス2025」が 11月1日～12月25日に開催。ルミナスナイトショー、冬の湖上火火、スケートリンク、新キャラクター「ご先祖さま」の登場など、絵本『ムーミン谷のクリスマス』の世界観を楽しめる内容でした。結果、11月には単月としてはコロナ以来、最高来場者数となる54,834人を達成いたしました。その後、「WINTER WONDERLAND in MOOMINVALLEY PARK 2025」が12月26日～2026年2月23日に開催され、雪あそび、昼夜のダンスパレード、オーロラ風ライトアップ、冬の花火など、より“本格的な冬のムーミン谷”を表現することができました。

株式会社ムーミン物語 第13期決算公告

埼玉県飯能市大字宮沢327番地6

株式会社ムーミン物語

代表取締役社長 望月 潔

貸借対照表

(2026年 3月 31 日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	685	流動負債	2,144
現金及び預金	320	買掛金	67
売掛金	91	短期借入金	354
商品	126	リース債務	150
原材料及び貯蔵品	25	未払金	1,412
前払費用	17	未払費用	13
未収入金	67	未払法人税等	5
その他	36	預り金	3
固定資産	5,216	賞与引当金	26
有形固定資産	3,946	その他	111
建物	100	固定負債	4,137
構築物	183	長期借入金	198
機械装置	10	リース債務	3,939
車両運搬具	0		
工具器具備品	71	負債合計	6,281
リース資産	3,581	(純資産の部)	
無形固定資産	1	株主資本	△379
ソフトウェア	1	資本金	50
投資その他の資産	1,268	資本剰余金	4,952
関係会社出資金	374	資本準備金	2,501
関係会社長期貸付金	754	その他資本剰余金	2,451
その他	139	利益剰余金	△5,382
		その他利益剰余金	△5,382
		純資産合計	△379
資産合計	5,901	負債・純資産合計	5,901

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(自 2025 年 4 月 1 日 至 2026 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

科目	金額	
売上高		2,705
売上原価		2,041
売上総利益		664
販売費及び一般管理費		664
営業利益		0
営業外収益		
受取利息	15	
その他	4	19
営業外費用		
支払利息	9	
匿名組合損失	46	
その他	4	60
経常損失		△40
税引前当期純損失		△40
法人税、住民税及び事業税		5
当期純損失		△45

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

匿名組合出資金

匿名組合の出資時に「匿名組合出資金」を計上し、匿名組合が獲得した純損益の持分相当額については、営業外損益に計上するとともに同額を「匿名組合出資金」に加減する処理を行っております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品

総平均法に基づく原価法によっております。

原材料

総平均法に基づく原価法によっております。

貯蔵品

最終仕入原価法に基づく原価法によっております。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、建物及び構築物については定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	7～35年
構築物	10～20年
機械装置	17年
車両運搬具	2～3年
工具器具備品	2～20年

無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によつています。

(4) 引当金の計上基準

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

(5) 収益及び費用の計上基準

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1:顧客との契約を識別する。

ステップ2:契約における履行義務を識別する。

ステップ3:取引価格を算定する。

ステップ4:契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5:履行義務を充足した時に又は充足につれて収益を認識する。

当社はテーマパーク事業を運営しており、顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は下記のとおりであります。

① 入場料売上

「ムーミンバレーパーク」に係る入場料売上については、テーマパーク内の施設の提供が履行義務であり、入場チケットの利用日に履行義務が充足されるものとして、一時点で収益を認識しております。

② 物販・飲食売上

「ムーミンバレーパーク」における物販・飲食売上については、顧客に商品を引き渡した時点で収益を認識しております。なお、物販売上のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識しております。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度末の発行済株式の総数に関する事項

普通株式 20,854株

(2) 当事業年度末における自己株式の株式数に関する事項

普通株式 16,969株

3. 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「1.重要な会計方針に係る事項」に関する注記 (5)収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。